

令和7年5月1日
規制改革推進会議 第5回 健康・医療・介護ワーキング・グループ

地域住民の健康のために ～薬局薬剤師の取り組み～

(全世代型地域包括ケアを目指して)

イイジマ薬局	開設者
上田薬剤師会	常務理事
飯島裕也	

略歴

- 2000年 上田高等学校卒業
- 2005年 東北薬科大学卒業
- 2006年 イイジマ薬局勤務
- 2015年 代表取締役就任
- 2021年 一般社団法人上田薬剤師会理事
- 2023年 一般社団法人上田薬剤師会常務理事



講師活動等

- 2008年～2017年 長小学校学校薬剤師
- 2018年～ 上田高等学校学校薬剤師
- 2013年～ 上田市医師会看護学校薬理学講師
- 2016年～2022年（閉校） 信州上田医療センター附属看護学校公衆衛生学講師
- 2022年 厚生労働省第1回薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループ参考人
- 2022年～ 市町村国保の適正服薬指導に対する薬剤師会連携推進事業（上田市、東御市、青木村担当）
- 2023年～ 上田市医師会看護学校公衆衛生学・薬理学講師
- 2023年～ PMDA審査専門協議委員
- 2023年 令和5年度ICTの進展等を踏まえた薬局機能の高度化推進事業（高度な専門性の発揮事業）薬剤レビューWSアドバイザー
- 2023年 厚生労働省令和5年度薬局における疾患別対人業務ガイドライン作成のための調査業務調査ガイドライン作成委員
- 2023年～ 厚生労働省薬局・薬剤師の機能強化等に関する検討会 構成員
- 2024年～ 長野医療専門学校歯科衛生士学科薬理学講師

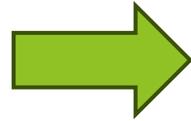
研究活動

- 2015年 ファイザーヘルスリサーチ振興財団
 - 薬局における地域医療連携下の高齢者健康管理の日豪国際比較（共同）
- 2022年 公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団
 - 地域連携における一般用医薬品の情報共有システム構築に関する研究（代表）
- 2023年 公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団
 - 感染症対策における一般用医薬品の適正使用に関する研究（代表）
- 2024年 日本薬学会ポスター発表
 - 学校薬剤師による高等学校向け疾患教育活動とその課題（代表）

健康維持・予防・早期治療に必要な要素と方策

要素

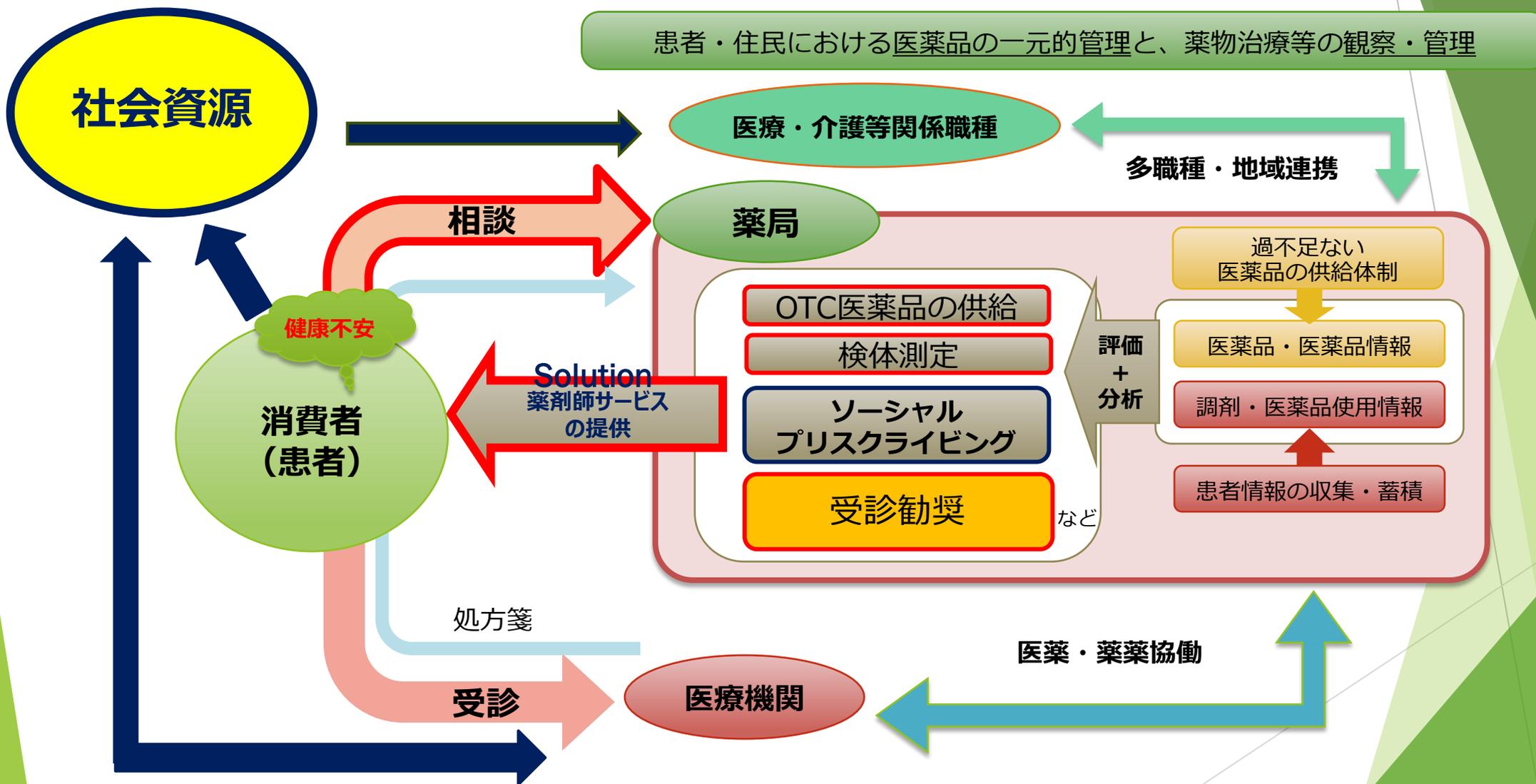
- 食事・栄養
- 運動・身体活動
- 休養・睡眠
- 精神的な健康
- 定期的な健康診断



方策

- ①教育・啓発活動の強化
 - ・学校教育
 - ・生涯学習機会の提供
 - ・ターゲット層に合わせた情報提供・取り組み
 - ・情報提供者の質的向上
- ②情報へのアクセス改善と質の確保
 - ・信頼できる情報源の明確化と周知
 - ・情報バリアフリーの推進
- ③行動変容を促すための取り組み
 - ・分かりやすい情報提供
 - ・社会資源との連携
 - ・相談しやすい環境

健康維持・予防・早期治療のために目指すべき薬局・薬剤師の役割



イイジマ薬局の取り組み事例

①教育・啓発活動の強化（ヘルスリテラシーの向上）

○学校教育

- 学校薬剤師活動を通じて、上田高校生（1年生）を対象に薬物乱用防止事業に加えて、健康関連授業を実施。（P11参考）
- ☆ 上記取り組みは、患者等の行動変容を促す目的も思考し、講義後日生徒家族の血液検査を確認し子供・孫から行動変容を促す取り組みとした。
- 今年度上田市（保健師）と共同して実施する予定。
- 学校薬剤師活動の一環として認定こども園保育士を対象に、セルフメディケーションと初期症状におけるレッドフラグサイン・受診勧奨について講座。



▲上田高校での授業

○生涯学習機会の提供

- 来局時（処方箋調剤、健康相談）
- 週一回のサロン活動（P12参考）
- 地域自治会で高齢者を対象にした講座
- 行政と連携した出前講座（P13参考）

○情報提供者の質的向上

- ★ 地域薬剤師会の取り組み（P14,15参考）
- 地域医師会等と協同した取り組み
- 薬局内研修会

○ターゲット層に合わせた情報提供・取り組み

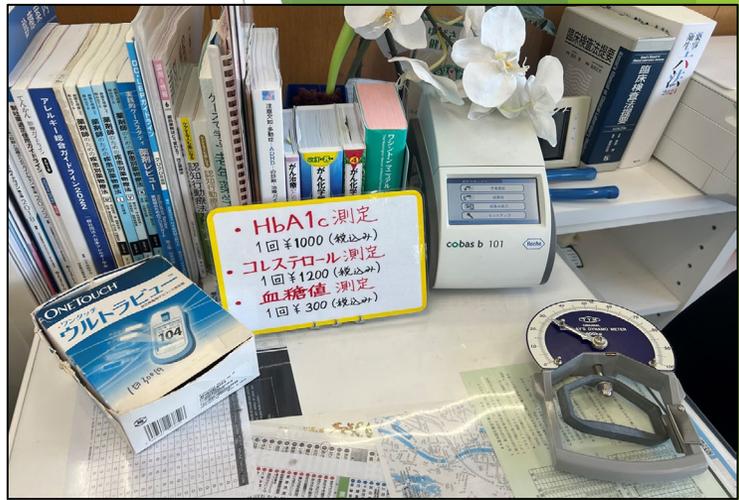
- 来局時（処方箋調剤、健康相談）
- ハリスクアプローチ（スケール評価、マイナンバーカード情報、プロファイリング）
- 受診や健康診断等を控えている方への啓発（②の取り組みがきっかけに）

②情報へのアクセス改善と質の確保

○信頼できる情報源の明確化と周知 ○情報バリアフリーの推進

- 来局時（処方箋調剤、健康相談）
- 検体測定室（利用者：月平均7名※最大10名）
 - 利用者の95%がHbA1c測定
 - 検査可能項目：血糖値、HbA1c、脂質関連
 - 40km以上離れた松本市からの利用者もいる
- 血圧測定、体組成測定、握力測定
- ☆ セルフケアの観点から生活者自身が自らの健康状態をタイムリーに知ることが重要
- ☆ 自らの取り組みの効果検証
- ◎ 取り組み事例：コロナワクチン予約代行（下左図）

検体測定室で多い生活者の利用目的



▲検体測定室

公開日：2021-05-12

新型コロナワクチンのウェブ予約を薬局が代行

コラム：トレンド（DIオンライン）
著者：河野 紀子＝日経ドラッグインフォメーション

✕ ポスト シェアする Bi Pocket



長野県の上田薬剤師会は2021年5月10日、会員薬局に対して、新型コロナワクチン接種のウェブ予約が困難な高齢者を対象に予約を代行するよう、協力を呼び掛けた。協力する薬局は上田薬が作製したポスター（写真1）を掲示し、予約を希望して来局した人の接種券と希望会場、日時を確認してウェブ予約を手伝う。予約の代行作業を担う薬局名は、上田市といった行政にも報告し、地域住民にも広報していく予定だ。上田薬剤師会会長の飯島康典氏は、「かかりつけ機能を持った薬局が行うからこそその安心感があり、今薬局が取り組むべきこと」と話す。上田市では21年4月21日から高齢者を対象にした接種予約を電話とウェブで開始した。だ...



▲一般用医薬品販売時にデジタルディスプレイを用いて情報提供

▼プラバシーを配慮しPadを活用



▲血圧測定、体組成測定

③行動変容を促すための取り組み

- 分かりやすい情報提供
- 社会資源との連携 (受診勧奨・ソーシャルプリスクライビング)
- 相談しやすい環境

事例：薬物乱用頭痛、胃潰瘍、脳梗塞、大動脈瘤等の早期発見早期治療

☆ 患者や地域住民の心情・信念やライフスタイル、リテラシー等をプロファイリング、信頼関係を構築し各個人に合わせた対応や情報提供及び根拠ある提案、継続的な声かけが重要。

(画一的では伝わらない) →疾患や検査値だけではなく「人」を見る。

→ 専門家が常駐し、気軽に相談できるかかりつけ薬局に価値がある。

↳ トランスセオレティカルモデル (TTM) : 行動変容における「無関心期」「関心期」「準備期」「実行期」「維持期」を捉えて効果的にアプローチする。

- SMART目標の設定: 具体的 (Specific)、測定可能 (Measurable)、達成可能 (Achievable)、関連性がある (Relevant)、期限付き (Time-bound)
- 小さなステップからの開始 (実行可能なことから) →楽しめるかが重要→内発的動機の喚起
- 進捗の可視化: 目標達成に向けた進捗状況を記録・可視化することで、モチベーションを維持 (例: 体組成、検体測定、アプリ)
- ポジティブなフィードバック (褒める!)
- 継続的な関与: 目標や計画の進捗状況を定期的に確認、必要に応じてアドバイス

■ それでも行動変容は難しい。→既存習慣の強さ (現状維持バイアス) →①を取り組むきっかけ

●地域包括ケアの深化には薬局の体制整備が重要と考えている

- 薬局面積 (多機能)
(1階: 調剤室20坪、店舗20坪、2階: 25坪)
- 十分な人員 (アクセス、タスクシェア) と設備
(効率化・デジタル化)
- 開局時間 (アクセス) (直接来局 & 電話相談)
- 多職種連携 (地域社会資源の把握)
- 品揃え (消費者ニーズ)



検査薬のOTC化についての考え

- セルフケア、セルフメディケーションとは自己管理であり、管理の指標として検査や検査器具を用いることにより、管理の指標となりうると考える。
- 適切な自己管理や受診勧奨を実現するためには、健康に関する記録を自ら管理することも重要である。
- 記録管理、受診勧奨については、薬剤師の支援や関与が重要である。
- 目的は利用者の健康維持、重症化の予防であることから、単なる営利目的での販売には注意が必要。薬剤師・薬局の質の担保が重要となるため、研修体制や施設基準を策定することが重要である。
薬剤師：継続的な研修や教育の必要性
施設基準：健康サポート薬局、高度管理医療機器の取り扱い
- 研究用と称される穿刺血検査キット等の販売については問題があると考えられる。対策が必要である。

○検体測定室で行える検査項目の拡大

現在8項目：血糖（血糖値、HbA1c）、脂質（HDL、LDL、中性脂肪）、肝機能（ γ -GTP、AST（GOT）、ALS（GPT））

学校薬剤師による高等学校向け疾患教育活動とその課題

A Disease Education Practice as School Pharmacist Activity for the high school students & Student's Acceptance

○研究形態 1) 清水純子 2) 飯塚洋 3) 小林大真 4)

1) 一般社団法人上田薬剤師会 2) 長野県立上田高等学校 3) アストラゼネカ株式会社、4) 徳島大学薬学部

【背景】 地域社会における薬剤師の役割は問われて久しい。薬業を社会インフラの一環と捉えて、薬業を拠点に地域貢献することも重要であるが、薬剤師の専門知識を活かした健康啓発活動もまた期待される活動のひとつといえる。たとえば、学校薬剤師制度もまた薬剤師の専門性を学校という社会の場を活用することで活かすことができるであろう。実際、学校薬剤師は、平成21年以降、健康相談・保健指導にも従事することが求められるようになった。中学生に対するがん教育や健康指導などで薬剤師による学校保健活動の呼びかけ等で関与されている。一方で、成人病・メンタルヘルスなど社会で注目される疾患についての啓発活動にかかわることができなかった。そこで薬業が担う高等学校で成人病のひとつである慢性腎臓病を例にして疾患教育を実施し、生活の改善などについて検証することとした。

【目的】 薬剤師・薬業の役割として地域住民一人ひとりの健康づくりに寄与することが望まれ、地域社会の中で薬剤師・薬業の活動がさらに見える化されることが求められている。そのような文脈の下で、学校薬剤師の職務である「健康相談・保健指導」を活用した地域住民への疾患啓発活動を委託学校教員と協働の上で計画した。具体的には、若年時代から健康意識を高めることを目的とした疾患教育を実施した上で、受講した生徒がその知識を活用した家庭内健康啓発活動ができるようなきっかけを考案することとした。こうした活動を通して地域住民に薬業・薬剤師の健康増進活動の一環の関与を暗示することを目的とする。

【方法】 薬剤師といわれる薬剤師を例にして、高等学校生徒を対象とした疾患啓発教育を実施した。実際にあつては、高等学校教員と協働に向けた実施計画の調整を前提に行つた上で、専門家の知識も兼ねた高等学校生徒にもわかりやすい教材作成に努めた。また、実施後は、アンケート調査を実施し、受講生の感想等について調査を実施した。

長野県立上田高等学校1年生1クラスに対し、慢性腎臓病（CKD）啓発教育資料をもちいて、学校薬剤師による授業（1コマ55分）を実施。授業実施後、参加者（学生）及びご家族に対してアンケート調査を行った。

【結果と考察】 ※アンケートは、N数が少ないことから単純集計及びクロス集計にて解析することとした。

CKDを食めた生活習慣病予防は生活自身のライフスタイルを改善するだけの健康リテラシーの向上が必要不可欠である。65%の生徒が家族と疾患について話す結果に結びついた。家族と話し合うことにより「繰り返し学習」効果もあり生徒本人の健康に対する意識を高めることができたといえる。さらに、「家族との話し合い」は受講した生徒にとどまらずそのご家族の疾患啓発につながる。つまり学校薬剤師による学校教育の場における疾患啓発活動は、生活を食めた関係性に対して効果的であったと考えられる。言い換えると、家族単位として健康意識の向上に学校薬剤師が関与できる証であり、様々な健康問題に対してこうした教育啓発活動を通じて地域社会の健康向上に薬剤師が関与できる可能性を示している。たとえば、昨今の学校教育法改正を鑑み、学習指導要領に「具体的な疾患教育」を盛り込む検討が図られており、こうした新たに追加される疾患教育は、学校教員にとっても負担になっているという懸念が聞かされてくる。薬剤師は疾病のプロではないし、ましてや教育のプロでもないが、日々の業務で健康・生活への関与にかを注いでいる。その意味では、薬剤師にもあるようなチャンスがあるといえる。生活者の疾患啓発のプロとして、教育のプロである保健体育教員と協働して学校教育を充て、また生徒を取り巻く親への関係性も健康意識向上のチャンスを活かすことができるとなれば、地域社会への薬剤師と薬業の関与の可能性が高まると考えられる。

【結論】 アンケート結果によれば、35%の生徒が健康問題に関心を示した。しかし、自身の家族と情報共有するにいたらなかった。このようなプロシットが親族への介入機会とらえた場合には、家族と情報共有するにいたらなかった理由があるはずで、その理由を調査した上で解決を必要だと考える。そこに家族の問題があるとすれば、学校教員と協働して対策を講ずることもできよう。こうした学校の連携も今後には必要になってくるのかもしれない。また、このような活動を広げたいと考え、当然に受講者理解の観点からテキストを履修する実地があると考える。本年の活動の結果を踏まえて、具体的な疾患の選定やテキストの改定なども考えていきたい。

① 慢性腎臓病（CKD）は御存知でしたか。

(n = 34)

はい	4	12%
いいえ	30	88%

② ご家族と慢性腎臓病（CKD）について話し合うことはできましたか。

(n = 34)

はい	22	65%
いいえ	12	35%

⑦ 慢性腎臓病（CKD）について話し合ったことで、ご家族の反応は如何でしたか。（抜粋）

あまりよく知らなかったらしく、ためになったと言っていました。運動の大切さを考えていた。ただ、今すぐには行動を変えることは難しいとも言っていた。「子どもから、こういった話を聞かされると、真剣に考えないといけないとより感じる。話してくれてありがとう。」と申ししておりました。

⑧ 慢性腎臓病（CKD）について、ご自身はどう感じましたか。（抜粋）

自分と関係のないことではないと感じ、塩分量や生活習慣に気を付けようと思った。今までそこまで聞いたことが無かったのですが、今回の講演を聞いて慢性腎臓病の怖さを知り、生活習慣を見直そうと思いました。食い止められることなので、自分自身の生活は自分でコントロールできるようにしたいと感じました。

⑩ 今回の取り組みについての感想を教えてください。（抜粋）

血液検査の結果をちゃんと見たいです。親と健康について話し合いいい機会になったのでよかったです。先生の話方が上手く、話が入ってきやすかった。知らない情報について知れてよかった。祖父母に伝えたいと思った。今までに学んでこなかった事をわかりやすく、教えてもらい面白かったです。自分や家族の生活習慣を正し、他の病気についても学んでみたいと感じました。CKDについて知らなかったが、かかったら大変な病気だと知り、もっと意識するべきだと思ったし、家族にも気を付けてほしいと思った。CKD以外にも様々な病気について知る機会があれば良いと思う。詳しく知ることができたので、これからの生活に生かしたいです。また、祖母や祖父にも広げていこうと思います。（先生の話が面白くて引き込まれました！ありがとうございます！）慢性腎臓病のお話は今まで伺ったことが無く、お話を伺う機会も少ないので、今回このような教室を開いていただけてありがたかったです。他人事ではなく、自分ごととして若いうちから健康について考えたほうが、未来の自分のためになるなと思いました。また、自分の家族と健康について話し合う機会にもなっていてありがたかったです。ありがとうございます！

サロン活動

- 2010年地域のNPO法人と共同で活動開始、その後コロナ禍により閉鎖、2023年住民からの要望と健康啓発、集う場の提供を目的に薬局単独でサロン活動を再開。サロンでは、薬剤師や管理栄養士からの指導やアドバイス等に加え、健康運動指導士を招いた健康運動（いきいき体操）等を実施。参加者の得意なものごとを指導者として教えてもらう（生きがいの場を提供）活動も。
- サロンは週一回開催。年齢・エリアの制限なく、出入り自由で参加可能。



▲いきいき体操の様子



▲長野大学社会福祉学部学生の参加



▲薬剤師によるセルフメディケーションについての講話



▲管理栄養士と減塩食をみんなで料理

なかよと集まって楽しく
週に1回の健康習慣

≪毎週木曜開催≫
イイジマ薬局・木町薬局
サロン

どんなことを
やっているの？

- 上田市地域リハビリテーション活動支援事業
いきいき体操（第3木曜）
- 薬剤師・管理栄養士と座談会
- なかよしクラブによる楽器の生演奏
- みんなで塗り絵
- お茶会（抹茶）

などなど…
「こんなことをやってみたい」の
ご提案も大歓迎！

≪どなたでも お気軽に参加ください！≫

日時 毎週木曜日 13:00-15:00
(祝日・お盆・年末年始を除く)
途中参加・途中退席可

参加費 100円

場所 永井果樹園南側
上田市中央北 1-2-7

イイジマ薬局・木町薬局 TEL: 0268-27-6688
TEL: 0268-75-8585

PARKING
イイジマ薬局/会場前
向かい側
駐車スペースを
ご利用ください

▲案内ポスター

行政と連携した出前講座

- 青木村の地域包括支援センター事業として、健康、疾患に関わる相談について出前講座を実施。

令和7年度 青木村地域包括支援センター事業

お茶やコーヒーを飲みながら、
ホッとひと息・・・
おしゃべりを楽しんだり、
自由に過ごせる場所です。

あおきカフェ

◆開催日◆
4月30日(水)、5月30日(金)、6月30日(月)
7月31日(木)、8月29日(金)、9月19日(金)
10月16日(木)、11月28日(金)、12月23日(火)
1月29日(木)、2月13日(金)、3月13日(金)

◆時間◆
10時～12時

◆場所◆
青木村役場 保健センター1階

参加費 100円

介護なんでも相談

夫、妻、ご両親、兄弟など、高齢により“この頃、心配事が増えてきた。こんな時どうしたらいいの？”といったお悩みごとがありましたら、お気軽にご相談ください。

◆相談日◆
4月4日、5月2日、6月6日、7月4日、8月1日、9月5日、10月3日、11月7日、12月5日
令和8年 1月9日、2月6日、3月6日
※いずれも金曜日
時間 9:00～16:00
場所 青木村地域包括支援センター(役場内)

脳と体のストレッチ教室

認知症予防につながる脳トレと転倒予防の筋力トレーニングを実施する運動教室です。

開催日 4月22日、★5月27日、6月10日、7月8日、8月26日、9月9日、★10月7日、11月11日、12月9日、令和8年1月27日、2月17日、★3月10日
※いずれも火曜日
時間 14時～15時30分
★印は、歯っぴータイム(運動教室のあと歯科衛生士の講話)があります。
会場 文化会館 講堂

筋力アップ ほきぼき教室

転びにくい体づくりを目的とした運動教室です。椅子に座っての運動が中心です。

開催日 4月2日・23日 / 5月14日・28日、★6月4日・18日 / ★7月9日・23日、8月6日・20日 / 9月3日・17日、★10月1日・22日 / 11月5日・★19日、12月3日・★17日
令和8年 1月14日・21日、2月4日・★18日 / 3月4日・★18日
※いずれも水曜日
時間 13時30分～15時
★印は、歯っぴータイム(運動教室のあと歯科衛生士の講話)があります。
会場 文化会館 講堂

お問い合わせは、青木村住民福祉課 地域包括支援センターへ TEL49-0111 (情報) 49-1110

▲青木村の地域包括支援センター事業

出前講座のご案内

個人のグループやさまざまな集まりに、無料で出張します。

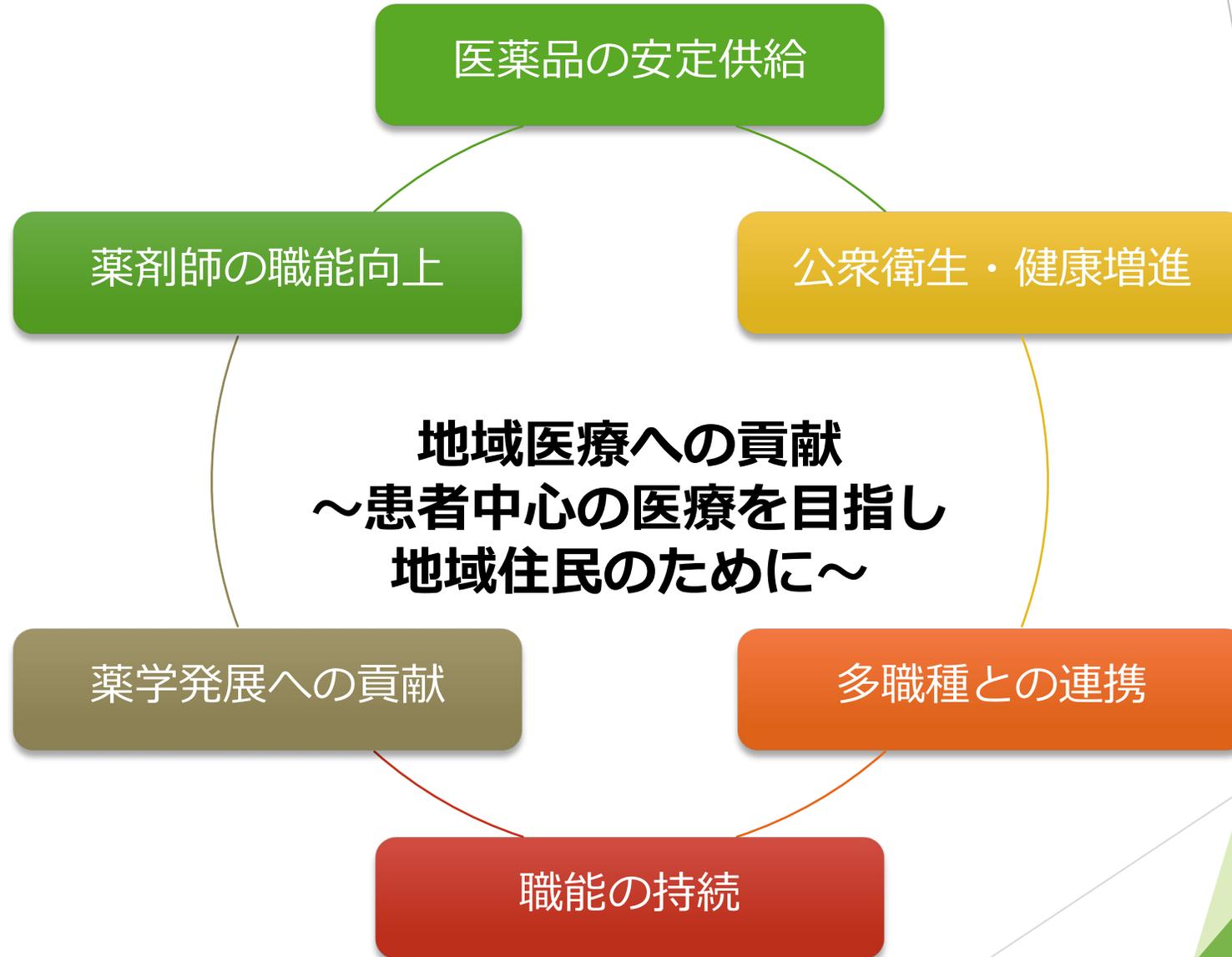
No.	講座内容	講師
1	家で出来る簡単な運動や誰もが出来る手軽なスポーツ ～ストレッチ、脳トレ、ポッチャ、スクエアステップ～ 等	・レクリエーション スポーツ指導員 ・レクリエーション インストラクター
2	認知症サポーター養成講座 ～認知症を正しく理解し、偏見をなくしていきましょう～	キャラバンメイト
3	最近の特殊詐欺の被害防止について ～防犯対策・不審者の対応・交通安全・簡易護身術など～	上田警察署
4	応急手当講習 ・普通救命講習1【3時間】内容：心肺蘇生法、AED(自動体外式除細動器)の扱い方、気道異物除去、止血法 等 ・救命入門コース【90分】内容：心肺蘇生法、AED(自動体外式除細動器)の扱い方	川西消防署
5	火災予防について ～火災が起きる原因、火が出た時の行動、消火器の使い方～	川西消防署
6	あなたを支援する薬剤師 そうだ、薬剤師に聞いてみよう！～疾患、薬、健康のこと～ ・この薬は一生飲み続けるの？ ・健康食品、サプリメントについて	イジマ薬局 山浦堂薬局
7	スマートフォンの基本操作を学ぼう 1.アプリって何？ 2.マップの使い方 【各1時間】 3.カメラの使い方 4.メールの送り方 5.インターネットって何？【各30分】	ドコモ・ショップ 上田店
8	健康や介護等について ～健康長寿を目指して、介護保険を知る～ 等	保健師
9	食事・栄養について ～フレイル予防・骨粗鬆症・高血圧と減塩について～ 等	管理栄養士
10	高齢により判断能力が低下する前に備えておきたいこと ～成年後見制度について～ 等	社会福祉士

対象 青木村にお住まいの方で5名以上のグループ
※講座の内容・テーマ、時間、ご要望等、お気軽にご相談ください。最寄りの公民館などに講座資料や必要な道具を持参します。 開催の1か月前までにお申込みください。
申込み 青木村役場住民福祉課 地域包括支援センター TEL 49-0111 (情報)49-1110

▲出前講座



▲ほきぼき体操後の薬剤師による出前講座の様子



医薬品の安定供給

☆夜間・休日・在宅医療への対応
不安定流通品、麻薬、輸液、高額薬剤、医療材料、
衛生材料、緊急・災害医療への協力

休日・夜間当番薬局制度

薬局機能情報提供

備蓄医薬品情報共有事業

会営薬局無菌室連携

「調剤室・調剤業務等の品質保証ガイドライン（GL）」

「薬局における品質管理マニュアル」

○地域医療への貢献

セルフメディケーション

- ・OTC医薬品、要指導医薬品
- ・衛生材料
- ・受診勧奨
- ・検体測定室

健康サポート薬局推進

○多職種との連携

地域医療の向上を目的として、
医療・介護・福祉・行政機関との連携
☆顔の見える関係の構築

市町村国保適正服薬指導連携推進事業

地域ケア会議

医師折衝

三師会親睦活動

公衆衛生・健康増進

- ・健康相談、受診勧奨
- ・セルフメディケーション推進の啓発と教育
- ・薬物乱用防止活動・学校薬剤師

薬物乱用防止啓発授業講師派遣

CKDシール推進事業

看護学校・歯科衛生士学校講師派遣

使用済み注射針回収事業

講師派遣

- ・市民公開講座
- ・出前講座
- ・職業体験

広報活動

- ・地域情報誌への掲載（週刊上田）
- ・JA有線放送
- ・薬草ハーブに親しむ会
- ・薬局マップ作成
- ・ホームページ活用

多職種連携研修会

- ・事例研究会
- ・特別講演会
- ・薬薬連携研修会
- ・病診部研修会
- ・無菌調整研修
- ・毒劇物取扱者試験準備講習会
- ・医療センター災害訓練

○薬剤師の職能向上

- ・生涯学習の推進・倫理綱領の遵守
- ・情報発信（最新の医薬品情報、医療情報）

薬剤師認定制度認証機構（CPC）G23

薬剤レビューワークショップの開催
～薬物治療の適正化（ポリファーマシー）～

上田薬剤師会認定基準薬局制度

覆面調査（健康相談、OTC医薬品販売）

○薬学発展への貢献

- ・研究活動の支援
- ・薬学教育への協力
- ・医薬品適正使用の推進

倫理審査委員会の設置

○職能の持続

- ・会員へのサポート・薬剤師の労働環境

認定薬局取得支援
（・健康サポート薬局・地域連携薬局）

薬局実務補助研修

短期薬剤師派遣支援